

北海道農業の未来を拓く広報誌

# HAL だより

Hokkaido Agricultural Laboratory  
for Business Development



## GAPとはなにか？

The fellowship

農業経営モデル紹介

有限会社ファーム花茶 取締役 小栗 美恵氏



<http://www.hal.or.jp>

# GAPとはなにか？

2020年東京オリンピック・パラリンピックにて使われる食材の調達基準が示され、

国内でのGAPに対する取り組みが加速しています。

各地で説明会などが行われていますが、まだまだわかりにくいとの印象を持たれている方が多いようです。

そこで、「GAPとはなにか?」。いま一度、基礎的な部分を考えてみたいと思います。

## Good Agricultural Practice

GAPとは、農業における、食品安全、労働安全、環境保全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのことで、Good Agricultural Practiceの頭文字をとったものです。農林水産省ではGAPを「農業生産工程管理」と日本語表記していますが、原文に「Practice」という言葉が使われていることから、「日常的に行う活動」という意味合いが根本にあり、GAPで求められている「食品安全」、「労働安全」、「環境保全」を念頭において営農活動が習慣的にできている様があるべき姿であると考えられます。

## GAPの種類

GAPで求められる適切な営農活動を実施するにあたっては、何を持ってその営農活動を適切とするのかの基準が必要となります。この基準は、国や地域、あるいは出荷組合単位での事情を考慮し、それぞれにつくられており、それがEURO GAP (GLOBAL G.A.P.の前身)であったりJGAP、都道府県GAPであったりします。

この様にGAPにも様々な種類のものがありますが、GFSIからの承認を受けたものが国際認証として扱われています。

## 国際認証とはなにか

GFSI (Global Food Safety Initiative) は、世界70か国400社以上の業界・企業などで構成されるCGF (The Consumer Goods Forum)の場を通じ、2000年に設立された世界最大の食品・流通の業界団体です。

GFSIが設立された背景には、90年代、BSEやダイオキシンなど、食品の安全性を揺るがすさまざまな事件・事故が発生したことがあります。各食品メーカーや小売事業者は、自社製品の安全安心を確保するため、それぞれが定めた内部基準に基づき、商品の検査や製造工程の管理を行っていました。しかし各社がそれぞれに独自の基準を作成したため、多数の監査を行うことが必要となり、そのための負担が大きくなりました。さらに、これら各社が独自に定めた基準は整合性が取られておらず、消費者からは、信頼のできる基準であるのか疑惑の目を持たれる結果となりました。

そこで、GFSIでは、これまで競争分野だと捉えてきた食品安全に関する取り組みを業界全体で取り組むべき非競争分野として捉え、各社の管理基準の同等性を判定(ベンチマーク)するガイダンス文書を発効することで、各社が独自に作ることで膨大な数となっていた管理基準を収束させていく手法に取り組みしました。ガイダンス文書では、①承認を得るための手順、②実施すべき要件、③CODEX(食品の国際規格)や



ISO規格によって定められた食品安全の原則を重要な要素として定めています。このガイダンス文書に基づき、GFSIベンチマーキング要求事項を満たしていることが確認されると、その食品安全に関する認証規格はGFSIによって「承認」された認証規格となります。

このように、GFSIは世界各国の事情を調整しガイダンス文書を発行しており、GFSI承認認証規格が国際認証規格として認められる根拠となっています。現在、植物の栽培に関するGFSI承認規格は、GLOBAL G.A.P.（青果物）／primusGFS、CANADA GAP、SQFの4つで、日本国内の規格ではASIA GAPが承認のための申請を行っています（2018年4月現在）。

### 「GAPをする」ということ

「GAPをする」という意味では、生産者が守らねばならない基準（管理点）をクリアすることが主題となります。たとえば、GLOBAL G.A.P.では、品目に応じて約200〜230項目の基準が設定されています。GAPを実践するにあたってポイントとなるのが、①リスク分析、②周知、③記録の3点です。GAPでは「食品安全」、「労働安全」、「環境保全」に考慮した活動が求められており、自身の営農活動がこれら3つの項目に対し、どの様なリスクを与えるのかをしっかりと想定し、そのリスクが生じな

いたための対策を行うことが求められています。リスク分析した結果は、その農場で働く人や農場を訪れる訪問者に周知する必要があります。関係するすべての人がその対策を知らなければリスク対策とならないからです。GAPでは生産活動に関する記録を取ることが求められています。これは、問題が発生した際の見直しや、適切に管理されていることを第三者に示すための再現性を有するためです。

### GAPは非競争分野

GAPの管理点の内容を大別してみると、①リスク分析に関すること、②周知に関すること、③記録を取ること、④法律や条例などを順守することに分けることができます。①〜③の項目については、リスク対策として自主的に取り組むべき項目で、④については義務として行っていて然るべき項目です。例えば、工業製品を購入しようとした場合、その商品が不当な労働条件下で製造されていない、環境汚染をしていない、安全なものだと信頼して購入しているはずですが、このような条件は消費者側から見れば当たり前のことであり、その上で、デザインや品質、価格といった面を考慮し商品を選択しているはずですが、これは農産品においても同じことです。GAPで求められていることは基本となるものであって、選ばれる商品となるためには、これに加えた努力が求められます。



## 香港SOGOにおける催事イベント 「北海道大冒険Hokkaido Fair」への出展



平成30年3月28日から4月3日の日程で、北海道産商品を取り扱う催事イベント「北海道大冒険Hokkaido Fair」が香港SOGOにて開催されました。

HAL財団からは、青果品のタマネギ、馬鈴薯などに加え、冷凍加工品のカボチャ、馬鈴薯など、またパスタやうどんといった協力事業者様の商品、HAL認証農産物協議会メンバーの加工品などを販売いたしました。

冷凍食品については特に好評で、実売価格が日本国内での販売価格の3倍程度と高額な設定となっておりましたが、1週間の催事期間中に、準備した650個が完売いたしました。

秋には「北海道豊漁・豊作祭」として再び開催されるのが予定されており、催事イベントでの評価を通じ、定番商品となるよう進めてまいります。

### HAL NEWS

道内の農業活性に一役!

## 中古品売買大手が札幌の新拠点で 農機具・農業機械の中古買取サービスを本格的に開始

中古品売買大手の株式会社マーケットエンタープライズは、これまで主に本州などで展開していた中古農機具の買取を、今春より札幌リユースセンター(2018年開設)で開始しました。

農水省によると、2017年の道内の農家戸数は3万8,800戸で、10年前と比べ約23%減少と年々少なくなっています。経営規模の縮小・廃業の際、農機具を処分もしくは売却に関する情報は少なく、その扱いや処分費用に苦慮するケースが多くなってきました。また、新規就農に関しては、農機具をはじめとした初期費用が割高なことから、ハードルが高くなっているのが現状です。同社では、この二つの課題解消のため、中古農機具を買い取り、安価で販売、再活用させることで、農業の活性化に寄与していく方向です。



買取サービスの  
主な流れ



電話・WEB・FAXで  
簡単査定



最短当日  
お引き渡し



現金で  
お支払い

### 株式会社マーケットエンタープライズ

- 設立/2006年
- 資本金/3億491万3,000円
- 札幌リユースセンター 所在地/札幌市北区新川2条6-6-12
- 農機具買取のお問い合わせ先(コールセンター)/0120-791-419



# The Fellowship



member's interview

Vol.48

※フェロウシップ(fellowship)とは、仲間である事、友情、協力などを意味する言葉。HAL財団では北海道農業に携わる方々とのフェロウシップを大切に、それぞれの経験や事例を共有・意見交換することで、北海道農業の発展に貢献したいと考えています。

第13回HAL農業賞優秀賞

有限会社ファーム花茶(千歳市)

取締役 小栗美恵氏



女性による六次産業化の先駆例  
やりがいのある農業生活を実践



農業分野では長い間、女性は従属的な労働を担う立場にありました。高知県から北海道の農家に嫁いだ小栗美恵さんは、「農業での自分らしい主体的な生き方」を模索し、1990年、いちご狩り農園事業を開始。これを成功させて地域への普及を働きかけ、エリア全体での観光農業の振興を図りました。また、高付加価値商品であるアイスクリームの製造・販売、ファームレストラン経営と事業を拡大しています。現在は女性や若い世代に自身の経験や想いを伝える活動を行っており、北海道の農業女性にとって生き方のロールモデルの一つとなっています。

農家の嫁として働きながら  
生きがいやりがいを模索

私は高知県の出身で、夫とは大阪万博で知り合いました。その後、酪農を志して北海道に研修に入った弟を訪ねがてら小栗家を訪問し、結婚に至りました。両親は「姉弟が同じ農業に関わるなら相談し助け合うことができるだろう」と結婚に賛成してくれました。

当時、空港から小栗家まではずいぶ



んと時間がかかりました。電話も数軒に1台の時代で、気軽に話せる相手もなく、ひたすら農作業と家事の日々です。畑も高知とは違ってとても広い。前を向いて作業するのが辛く後ろ向きに作業して、近所の人たちに笑われました。嫁入り前は気軽に珈琲を飲みにいける生活をしていて、嫁いではからは気兼ねしつつ購入したインスタントコーヒーをこっそり飲みました。その頃の小栗家の農地は約20haで、ビート、小麦、ジャガイモ、豆やカボチャなどを作っていました。

それでも、好きで嫁いできたから文句もなく働いていたのですが、だんだん

と、一生懸命に働いても評価されないこと、無報酬であることなどから「ただ言われたまま暮らしている私ってなんなのだろう」と思うようになりまして。嫁いで2つの葬式を経験したのですが、親が死ぬと子らが集まって「父は、祖父は、こっぴつ人だったね」と語り合う。自分は子どもたちはどう思い出してもらえるだろう、「暗い人だった」とは言われたくない。「いきいきしてたよね、北海道まで嫁いできて自分の人生を生きただよね」と言ってもらいたい。そのために何が出来るだろう、と考えました。

農業の中で自分を活かせるものを

探し、フラワーリースづくり、草木染め、織物などに挑戦しました。家族には「遠くの畑に行ってください」と言ってお業着で外出し、車の中で着替えて札幌の教室まで通いました。夫は理解して、協力してくれました。

## イチゴ狩りの成功から 地域ぐるみの取り組みへ

農業改良普及員の方から「イチゴを栽培してみないか、教えてあげますよ」と言われたのは1989年、39歳のときです。家族は猛反対。先代が栽培したことがあり、手間が苦労したから止める、というのです。でも私は自分で収穫・出荷するのではなく、果物狩り農園としてならやれると思えました。子どもの頃に両親に連れていってもらった楽しい記憶があり、今の都会の子どもにも喜ばれるとも思いました。苗を植える前日まで「こんなところまで誰もイチゴ狩りに来るはずない」と反対されましたが、意地で10aに定植。家族との通常の畑仕事の前後に、一人でイチゴの管理をしました。

翌年スタートしたイチゴ狩りは、ビートが10aで約10万円の時代に124万円を売上げました。家は温泉や観光地に抜ける国道沿いにあり、立ち寄った人が家族と共に再訪してくれました。また市内の老人クラブ全てに案内



を出すなどの営業もしました。

けれど、一軒だけでは地域に人を呼ぶ力が弱い。そこで普及センターの方と共に地域の女性たちに声をかけ、後には男性にも参加してもらい、イチゴ栽培の組合を作りました。料金設定などを統一し、全体として盛り上げていこうという試みです。これが発展し、現在は千歳市グリーン・ツーリズム協議会で取り組むようになりました。

## アイスクリーム店を開店 特区として営業許可を取得

イチゴ狩りはシーズンが短く、茹でトウモロコシや野菜の直売などもしましたが、もっと確実にリピーターが来るようにしたいと考えるようになりました。



それには店舗がほしい。料理の提供は難しいがアイスクリームならできるかもしれない、老人にも子どもにも喜ばれる、と考えました。アイスクリームの作り方は、食品加工センターに半年間通って学び、イチゴを使ったオリジナルレシピを開発しました。

問題は、小栗家と農地は市街化調整区域だったこと。「農業以外の事業は行えない場所だから無理だ」と多くの人に反対されました。けれど、かつては批判的に反対していた人が私のこれまでは人間が作ったものだから変えることができる。やりなさい」と背中を押して

くれました。

店の建築資金はなんとかありませんが、アイスクリームマシンの資金はありませんでした。農家の主婦ですから信用も担保もない。販売業者を訪ね、これまでの取り組みとデータ、やりたいことを説明してお願いしたところ、「応援します」と700万円ほどするマシンを無利子無担保で仕入れてくれました。冬に注文してイタリアからマシンが届いたのが5月。搬入されたときには「いよいよだ、借金を返せるだろうか」という期待とプレッシャーで全身が震えました。

アイスクリーム店「花茶」には多くの

お客様が来てくださり、借金は一年で返すことができました。また、農作物に付加価値を付けることの必要性、都市と農村との交流や女性の雇用の創出を訴えかけるなどして、行政から構造改革特区としての営業許可も降りました。

接客の様子を知ること、家族が私の想いを理解してくれるようにもなりました。「ありがとう」「美味しかった」という言葉が心の栄養剤になる。人に認められることで仕事の意欲が湧くのだと理解してくれたのです。店がメディアで紹介されたことで、親戚や近隣の人たちが自慢に思ってくれるようにもなりました。「私はこれをやるために北海道まで来たのだ」と思うことができました。

### 農家レストランとして さらなる差別化を図る

くに子どもたちに渡し、失敗しながら学んでいくことが大事だと考え、10年ほど前からそうしてきました。

ファームレストランは同業態の店が増え、農場ならではの新鮮な素材の使用や美味しさが当たり前となりました。「花茶」では長男がイタリアに渡ってナポリピッツァ協会の重鎮の元で修業し、石窯ピッツァを提供、差別化を図りました。

さらなる特徴づくりのため、健康に配慮した料理の提供というアイデアを持っていましたが、一方で「私の取り組みとしてはもういいかな」という気持ちもありました。ですが、思いがけなくHAL農業賞をいただいたことが、また新しい分野に挑戦しようという意欲に繋がりました。現状維持に甘んじず、目標に向かって進み続けていきたいと思っています。

2002年の法人化は、子どもたちがトラブルなく経営に参加できるようにと考えたのがきっかけでした。現在は長男がファームレストランのキッチン、娘がホール、次男がアイスクリームの製造・販売を担当しています。責任感を持つには早

#### DATA



#### 有限会社ファーム花茶

所在地 / 北海道千歳市泉郷479番地  
 設立 / 1996年6月  
 設立 / 2002年2月22日  
 事業内容 / イチゴ狩り、アイスクリーム製造・販売、ファームレストラン

## 北海道農業法人協会3月～6月の主な活動

- 3月 1日 上川管内農業法人ネットワーク「平成30年度通常総会及び特別研修会」(旭川)
- 8,9日 全国農業法人春季大会(東京)
- 9日 平成29年度第3回北海道農業法人等支援連絡会議(札幌)
- 12日 平成29年度北海道6次産業化・地産地消推進協議会(札幌)
- 20日 平成29年度第2回北海道農業・農村労働力確保対策検討推進会議(札幌)
- 22日 第1回三役会(札幌)
- 27日 第2回のぶし経営塾「農林水産省平成30年度政策に係る情報交換会」(札幌)
- 
- 4月24日 第1回役員会(札幌)
- 25日 酪農部会第3回総会(札幌)  
第3回のぶし経営塾「酪農に関するホクレンとの意見交換会」(札幌)
- 27日 平成30年度都道府県農業法人組織事務局担当者会議(東京)
- 
- 5月29日 日本農業法人協会第18回都道府県会長会議(東京)
- 
- 6月 4日 第2回三役会(札幌)
- 15日 第2回役員会(札幌)
- 21,22日 日本農業法人協会第37回総会・全国農業法人夏季セミナー(東京)
- 30日 八紘学園「農業のしごと相談会」(札幌)

平成30年4月25日(水)、モントレーホテルホフ札幌にて北海道農業法人協会酪農部会3回総会が開催されました。総会では、有限会社仁成ファーム菊池代表を議長に審議が行われ、平成29年度事業報告として、のぶし経営塾によるホクレン酪農部との意見交換会の実施などが報告されました。また、今総会では役員選挙も行われ、引き続き、有限会社ドリムヒル小椋代表を会長として部会を運営していくことが承認されました。

午後からは、ホクレン酪農部村上部長らをお招きし、意見交換会を実施いたしました。意見交換会の前月に行われた生乳一般競争入札の結果に対し、一部乳業メーカーの間で「需給を反映した適正な価格とは言えない」と反発があったとの報道を受け、会員からは継続的に入札量を増やしていくべきとの意見が出されたほか、現在行われている設備投資は現状の乳価水準を基礎としていることから、安

## 酪農部会第3回総会を開催

From  
北海道農業法人協会  
2018 Summer

定的な生産基盤強化のためには乳価水準を落とすべきでないとの意見がありました。また、国内の需給調整は全国規模で公平に行うべきであり、現在北海道の生産者が大部分を負担している飲用乳の移送費については、JA全農がしっかりと考えるべきとの意見が出されました。



## 【第14回】HAL農業賞 応募者募集

一般財団法人北海道農業企業化研究所(HAL財団)(理事長 磯田憲一)では表彰事業として「第14回HAL農業賞」を実施いたします。この表彰は北海道農業の発展に多大な貢献、功績を挙げた個人および法人・団体を表することで、北海道農業を活性化し、農業の企業化を促進させるために2005年(平成17年)に創設したものです。従来の表彰の多くが過去の実績に対し表していたのに対し、「HAL農業賞」では過去の実績に加え、事業計画やビジョンなど未来に向けた取り組みも選考の基準にしています。なお、表彰式については別途お知らせいたします。

名称 / 第14回HAL農業賞  
主催 / 一般財団法人 北海道農業企業化研究所  
募集期間 / 2018年8月1日(水)～9月14日(金)  
表彰日時 / 2018年12月または2019年1月予定  
応募条件 / 北海道に居住もしくは本拠を置き、以下の条件のいずれかに合致する個人および法人・団体。  
①北海道農業の発展に多大な貢献、功績が認められる個人および法人・団体。  
②北海道農業を活性化し農業者の収益を向上させるため、他の事業や業態に取り組んだ企業化を計画・実施している個人および法人・団体。

応募方法 / 所定の応募用紙に必要事項を記入のうえ、郵送または電子メールで応募。応募は、自薦もしくは他薦。  
(応募用紙は電話、FAX、メールにて請求するか、財団ホームページからダウンロードしてください)  
URL: <http://www.hal.or.jp>  
表彰内容 / 一般財団法人北海道農業企業化研究所の役職員および有識者で構成する「選考委員会」で審査し、優れたものに対し次の賞を授与します。  
【各賞(予定)】  
HAL農業賞大賞(賞金100万円)1件  
優秀賞(賞金50万円)のほか数件を予定。  
結果発表 / 2018年12月上旬(予定)  
決定後、財団ホームページ上でお知らせいたします。